

（ジャッカルの日）のフレデリック・フォーサイス原作（ボセイドン・アーバンチャード）のロナルド・ニーム監督

全世界を震撼させた恐るべき秘密——『オデッサ』
その謎を追つて展開する息づまる超サスペンス！

THE ODESSA FILE



〈カラー作品〉
パナビジョン

オデッサ・ ファイル

製作 / 「ジャッカルの日」のジョン・ウルフ

撮影 / 「ナバロンの要塞」のオズワルド・モリス

音楽 / 「ジーザス・クライスト・スーパースター」の

アンドリュー・ウェバー / ティム・ライス

主演 ジョン・ボイト / マキシミリアン・シェル
メアリー・タム / マリア・シェル

原作・邦訳・角川書店刊

サントラ盤 (MCA レコード) / 主題歌ペリー・コモ (RCA レコード)



コロムビア映画

次回待望のロードショー

伊勢丹会館ヨコ

新宿ピカデリー

(354)
2411

〈カラー作品〉
パナビジョン

オデッサ・ファイル

コロムビア映画



■世界中から選び抜かれた最高のスタッフ！ 最高の面白さ！

■凄い見応え！ 第一級の超大作！

フレデリック・フォーサイスが「ジャッカルの日」に続いて書いたベストセラーの完全映画化。前作より凄い迫力とサスペンスに富んだストーリーとしての評判が高く、日本でもすでに邦訳版が二十万部近く売れている話題作だ。映画は原作以上に緊張感を盛りあげ、全世界にすさまじい「オデッサ」ブームを作っている。

「オデッサ」とは何か？ 一人の若いジャーナリストを主人公に、世界的に驚愕すべきある秘密を鋭くあばいたこの超大作は、事実とフィクションを巧みにおりませながら、強烈なサスペンスをつくり出している。主演は「真夜中のカーポーイ」のマキシミリアン・シェル、そして新人の美女女優メアリー・タムら。

面白さ抜群のストーリー展開と アツと驚くラストの迫力！

一九六三年十一月、アメリカのダラスでケネディ大統領が暗殺された。その日、西ドイツのハンブルグで、ヒトを刺された。彼は商売柄、そのニュースをじっくり聞くため車を道端に寄せて止まつた。その傍を一台の救急車が走り抜けた。持ち前のジャーナリスト根性を發揮した彼は、何の気なしに救急車のあとを追う。そもそも、この夜、彼がカーラジオをつけていたなかつたら、あるいは救急車にあわなかつたら、この物語は始まらなかつた……。

こうした原作と同じ出だしで始まるこの映画は、ジャーナリストのベーターが救急車のあとについていつて出会つた一人の老人の死から、ある恐るべきことを発見する。それは全世界にとどまらず、また彼自身にとっても驚愕すべきことだつた。その秘密をあはくなため彼の行動が開始される。こうして、この息づまるサスペンスはものすごい迫力で観客を叩きこんでいく。そしてラストでは、思いがけないドンデン返ししが仕組まれ、二時間八分という長さがまるで一時間くらいにしか思えない面白さだ。

■「オデッサ」ブームをつくった 鬼才フレデリック・フォーサイスの原作！

「ジャッカルの日」で躍世界中にその名を轟かせたご存知フレデリック・フォーサイス。彼の第二作目のベストセラーがこの「オデッサ・ファイル」だ。一九三八年生に生まれて、ロイター・通訊社員としてヨーロッパ各国に駐在した彼は、六九年以降はフリーランスのレポーターとして、欧米の主要新聞、雑誌に寄稿。ジャーナリストとしての旺盛な好奇心、鋭い時代感覚は、モームやグレアム、グリーンを生んだイギリス推理小説の伝統に華を添える才人といふ評が高い。彼の作用によるこの話題作が、実際に見事に素晴らしい迫力で描かれているのが、この「オデッサ・ファイル」である。

■総結集された豪華スタッフ！

この全世界注目の超大作を作るにあたって、現在の映画界の超一流スタッフがかりだされた。製作は「ジャッカルの日」のジョン・ウルフ。脚本は同じく「ジャッカルの日」のケネス・ロスとジョージ・マクスタインのコンビ。さらに音楽が「ジーザス・クライスト・スーパースター」の名コンビ、アンドリュー・ウェーバーとティム・ライスの二人。撮影は「ナバロンの要塞」の名手オズワルド・モリス。そして監督が、あの「ポセイドン・アドベンチャリー」のロナルド・ニームで、全精力を傾けて実に見事な作品に仕立てている。また、タイトル・バックの主題歌を唄っているのは、今アメリカで再び凄い人気を呼んでいるボビュラーの大御所ペリー・コモといつて豪華な顔ぶれである。

■これが「オデッサ」だ！

「オデッサ」とは、国名でもなければ地名でもない。これはドイツ語の Organization Der Elektralgen horogen (元SS隊員の組織) のイニシャルをつなぎあわせた略語である。SSとは、アドルフ・ヒトラーのもと、ハインリヒ・ヒムラーによって支配されていた、軍隊の中の軍隊ともいうべき存在で、一九三三年から四五五年まで、ドイツを支配したナチス第三帝国で特別の任務をもつた。

これらの任務を達成するため、SSはなんと千四百万人の人間を虐殺した。敗戦前から、SSは高級幹部は生き残ることを知っていた。彼らは自分たちだけが新しい生活に逃亡できるよう準備をすすめていた。莫大な金塊を国外へ持ち出して、スイス銀行に預け、姿形を変え、身分証明書を偽造して逃亡経路を設定した。中でも最大の任務は、ヒトラーの悪魔的野心を実現させたため、彼が考えた、「生存に価しない人種を撲滅すること」だ。それが老若男女を問わないすべてのユダヤ人をヨーロッパから抹殺した、史上あまりにも有名な大量虐殺である。

これらの人間を虐殺した。敗戦後、あらゆる分野に社会復帰した。戦争の敗北を知っていた。彼らは自分たちだけが新しい生活に逃亡できるよう準備をすすめていた。莫大な金塊を国外へ持ち出して、スイス銀行に預け、姿形を変え、身分証明書を偽造して逃亡経路を設定した。そして連合軍がドイツを占領した時、大量虐殺をした。張本人たちは姿を消していた。この逃亡を実施するために作った組織が「オデッサ」である。

「オデッサ」によって助けられた元SSの高級将校や隊員たちは、戦後、実業界をはじめ警備や役所などの中枢をしめ、偽名を使って実業界をはじめ警備や役所などに就職した。映画はこの「オデッサ」の秘密の中の秘密のアイル組織である。映画はこの「オデッサ」アイルをめぐつて凄いサスペンスが展開されていく。